

編 集 後 記

“胃と腸”も4巻5号を発刊する運びになり、地道な歩みを続けているが、これも全国の御愛読の諸先生、編集委員、編集室の3者の一体化が順調なことと、それぞれの立場になってよく考える方針によるものである。これまで“胃と腸”では胃癌、胃十二指腸潰瘍、慢性胃炎を始めとする消化管の重要な疾患が次々とテーマとして取り上げられてきたが、本号のテーマは“稀な胃病変”であり、胃石、胃内回虫症、胃寄生虫性肉芽腫、胃結核、胃梅毒、代償性胃出血、悪性貧血、胃リンパ管腫、胃 Glomus 腫瘍、悪性黒色腫の胃転移、胃カルチノイド、Rendu-Osler-Weber 病などが掲載されている。

われわれの日常の診療には胃癌およびその他の腫瘍、胃十二指腸潰瘍、慢性胃炎などが最も頻度が高く、最も重要であり、これらに関する知識、経験は必須であるが、日常の診療で数多くの患者に接するうちに、このような稀な胃病変に遭遇するものであり、ことに胃癌、胃ポリープ、粘膜下腫瘍、胃潰瘍などと診断して手術し、稀な胃病変と判明することが一番勉強になるものである。したがって稀な胃病変についての知識も胃癌や胃潰瘍などの重要な疾患の知識を深めるために欠くことができない。また稀な胃病変についての知識を深め、経験を重ねることにより胃疾患に対する興味はますます深まるものである。御愛読の諸先生にはこの点を十分に御理解頂きたいものとする。

なお毎号お楽しみ頂いている「研究会紹介」を本号は紙数の都合により割愛させて頂いた。読者諸先生の御諒承を願いたい。

<増 田 久 之>

<編集> 早期胃癌研究会